

西谷啓治と田辺元 空と種

平成29年度京都哲學會公開講演会講演
2017年 11 月 3 日
京都大学 国際科学イノベーション棟会議室5a,b

京都大学大学院文学研究科
現代文化学系
情報・史料学専修教授
林 晋

Ver.2017/12/01

この講演の資料などについて

- 配布する詳しいレジュメはありません。
- このスライドをPDFにして、林のサイトに置きます。
 - 「林晋」あるいは susumu hayashi でサーチすると見つかる。
- 次号(?)の哲学研究に、論文を投稿予定。詳しくは、そちらを。

この講演の目的(1)

- 西谷は、西田、田辺に次ぐ、京都学派第三の哲学者という位置を獲得しているといつてよい。
- その西谷は、自らを、西田とともに田辺の弟子でもある、と位置づけていた。この三者は京都学派という近代日本の一大文化現象において、大きな三角形を形成している。
- しかし、西田と西谷の思想を関係づける研究、西田と田辺の思想対決の研究は多いが、田辺と西谷の思想の関係についての研究は、ほとんどゼロに等しい。
- 本講演では、三角形の失われた一辺「西谷啓治と田辺元」について、主に西谷の側から光を当てる。

哲学史でなく文化史・思想史

- 林は歴史家でありたいと願っており哲学研究をする気が全くない。田辺などについて色々書いているが、これら総ての林の研究は思想史・文化史に属し、**意識的に**哲学史になることを避けている。
 - A哲学が正しく、B哲学は間違えている、などの判断は極力しない。その一方で、A哲学とB哲学の、どちらが、当時の思想の流行をより良く反映しているか等の判断をする。
 - **哲学・哲学史ではないが、哲学・哲学史研究の参考になればよいと思っている。**

研究の背景

1. 杉村靖彦氏からの林の田辺元研究へのコメント。
2. 西谷について講義した際に気が付いた「空の思想」と「種の論理」との用語・テーマ・図の重なり。
3. 哲学研究600号の林のアーティクルで指摘した、「人間関係を元にした文化史・思想史としての京都学派研究」の可能性の一例として。

この講演の目的(2)

- 哲学史としてみても、思想史としてみても、不完全な研究。
- しかし、少なくとも文化史としてみれば、面白いエピソード集にはなっている。
- そういうものを通して、京都学派に興味を持つ研究者に、研究の新しい方向の可能性を提起したい、というのが、この講演の最大の目的。

背景1: 杉村氏からのコメント

- 林は、岩波「思想」、田辺没後50年記念特集の「田辺元の「数理哲学」」などで、次の様に主張した。

種の論理を代表とする田辺の哲学は、社会哲学などでありながら、数理をモデルにしているという意味で「数理哲学」である。そして、そのことを最もよく理解していたのは、「数理の歴史主義展開」を、「最も田辺先生らしい」とした西谷啓治であった。

- これに対して、杉村さんより、立ち話で次のコメントをもらった:

面白い。しかし、では、何故、それだけ田辺哲学の本質を知っていた西谷が、同じ方向を目指さなかったのかという問題が残る。

杉村さんへの回答

- 杉村さんの疑問への林の回答は簡単：数理の問題は、もともと西谷の興味の範疇外だった。また、西谷は、「数学への興味」だけでなく、「数学のセンス」もなかったと思われる。
- 林が、そう思う理由：
 - 田辺や西田のような数理への言及がない。数学者の思考パターンについて若干あるだけ。数理は、西谷の関心のスコープから外れている。
 - 「空と即」(13,p.134:著作集の巻とページ、以下同じく)で、良く知られる回互的關係の「部屋の譬え」で、二つの部屋の譬えを詳述した後、この「二つのものの間」の回互的關係は、三角形の部屋での「三つのそういう連関」、四角形、多角形の部屋へと拡張されるとしている。
 - しかし、三つのものの連関が「三角形の部屋」に対応するのならば、最初の譬えの部屋は「二角形」になってしまう！??

ゲーデルを通しての西谷への興味

- その様に考え「杉村さんも真剣にコメントしたわけでもないだろう」と放っておいた。
- しかし、別途やっている数学基礎論史の研究（これが林の文系研究のルーツ）で、Kurt Gödel の1960年頃の「近代化論」、自然科学は外延的に発展して原爆やTVを作れるようになったが、本質からは、ますます遠ざかりつつある、という議論の背景となる clear-cut で general な近代化論を探していたところ、西谷のニヒリズム論に行きついた。そこで、ニヒリズム論を中心に、何回か西谷関係の特殊講義を行った。
- その際、「空と即」まで足を延ばすことになったが、そこでは、最近の数学基礎論史研究（J. Ferreirós等）で重要視される1900年代位までのアリストテレス論理学の役割り、と連動するような「新論理学」についての記述があり（13, pp.126-7等）、さらに興味を覚えた。

背景2: 空と回互的關係の「構造」(1)

- そして、西谷のテキストを読み進むうちに、奇妙な既視感に陥った。
- 大谷大学講義で、西谷が描いた回互的連関の図(24,p.58)が、林が長年翻刻と分析を行っている昭和9年の田辺元の講義準備メモ、つまり、種の論理誕生の際のメモの図と同じ形をしていたのである。
- さらに注意すると「空と即」の回互的関係の「定義」に種の論理の初期バージョンの中心概念「分有」teilhabe がでてくるし、種の論理のテーマを連想させる議論・用語が色々と見られた。
- ニヒリズム論における「プラトンなどの彼岸の批判、此岸の徹底」の立場や、「空の思想」での「本質と現象」の議論(13,p.134)などから、空の思想が批判的に種の論理のテーマとつながっている様に見えるてきた。

空と回互的關係の「構造」(2)

- そう思って、さらにテキストを分析すると、西谷の思想、特に「空の思想」は、**構造的には、田辺哲学、それも種の論理を裏返したもの**として理解できることを示す「証拠」が、色々見つかった。
- 例えば、田辺が個と対立する種の構造を**引きちぎろうとする力**である静力学のテンソルで譬えたのに対し、西谷は、空と回互を、「そういう回互的關係そのものが、すべてのものを一つに**集め結びつける「力」**にほかならない。〈中略〉空の場は力の場である」(10,p.169)という正反対の力で説明している。
- それらの幾つかが、後で具体的にお見せする、この両者の關係を示す資料。

背景3：西谷と田辺の人間関係

- 昨年、林は左京区田中上柳町の西田旧宅の保全活動に携わった。
 - [西田幾多郎「悲哀の哲学」の現場](#)
 - 哲学研究600号「[西田幾多郎田中上柳町旧宅について](#)」
- 哲学研究のアーティクル「[西田幾多郎田中上柳町旧宅について](#)」で書いたように、この家での西田と西田家の人々の生活を知るために、月報などのエッセイを多く調査した。
- その結果、近いと信じていた西谷・西田の関係は、実は「疎遠」ともいえるもので、それに比べて実に濃密なのが、西谷・田辺の関係であることに気が付いた。
- 田辺が「鎧を着た人」(by 久野収)であることを考慮すると、西谷と田辺の人間関係は、驚くほど濃密だった。

西谷の証言(1)

- 西谷啓治「戸坂潤の思い出」、戸坂潤全集3巻附録月報4昭和41年10月p.7:
 - 同じ能登の出身で、境遇も似ていた西谷と戸坂は学生時代、無二の親友となり、例えば二人で愛宕山に登った時も、「山を上って下るまで議論しつづけであった」様に、兎に角、始終議論し続けていた。
 - しかし、西谷は、このエッセイで「今までの私の生涯のうちで、田辺先生とを除いては、彼(戸坂)と一番多く議論したのではないかと思う」と書いている。
 - つまり、西谷は、自分が、その時までの生涯で一番議論したのは田辺だと言っていることになる。

西谷の証言(2)

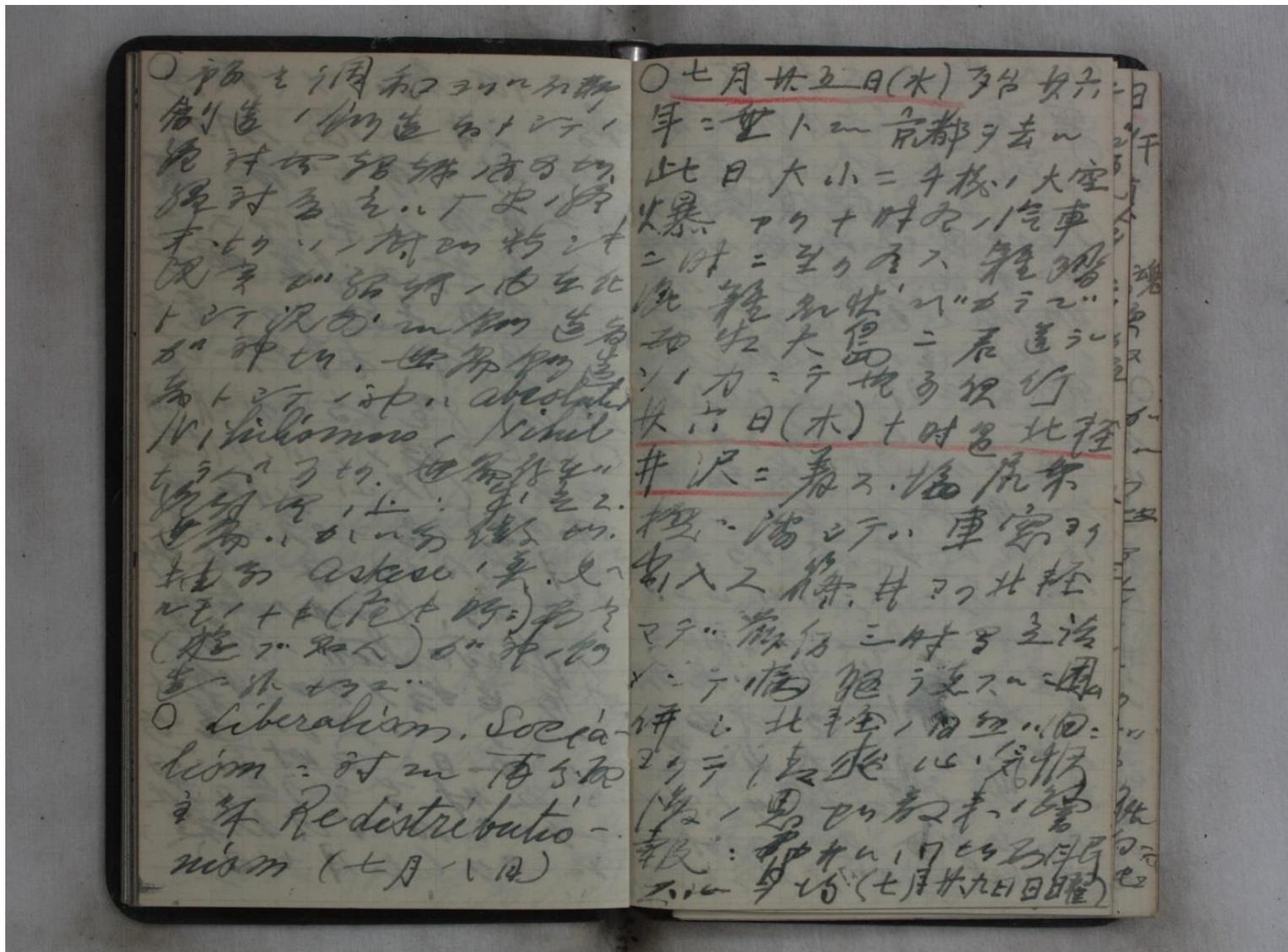
- 西谷啓治「田辺先生のこと」、pp.281-6、「田辺元 思想と回想」、1991年筑摩書房、p.286:
 - 田辺先生は西田先生の弟子だと思われがちだが、実際はそうではない。学問上の議論がいささか感情的なものになり、お二人の間が疎遠になってきたのは、私が三高の専任講師のころであった。私は田辺先生の弟子でもあるのに、田辺先生は私を西田先生の代りにして議論されるというようなこともあった。そのようなとき私は、自分は自分だと思ふよりほかなかった。西田先生はむつかしいところがあったが大きな感じがして、長年接してもこわい思いから抜けきれなかった。田辺先生は謹厳そのもののうちに神経質なところがあり、西田先生がヘーゲル的なものに対しカント的で、私にはこわい感じはしなかった。

大島康正の証言

- 同じ「田辺元 思想と回想」の「京都から北軽沢へ」pp.308-313で、大島が、昭和20年7月25日に、田辺夫妻が京都を去り、隠遁先の北軽井沢に向かった際のことを記録している。
- この時、田辺の副手だった大島その他、西谷が同行を申し出た。そして、名古屋から中央線、篠ノ井線、信越線経由で北軽井沢を目指したが、北軽井沢につくまで、そして、田辺邸についてからも、田辺、西谷が間断なく哲学の議論をしていたことを大島が証言している。
- 大島は「一日がかり」と書いているが、田辺の日記によると、到着は翌日26日の10時ころ。昭和20年7月の国鉄時刻表によると、予定された出発は25日の10時23分。この間、間断なく議論していたらしい。

昭和20年7月29日の日記 群馬大所蔵

史料番号1210090051 田辺文庫手帳(45) 撮影・翻刻 林晋



○七月廿五日(水)殆廿六年二垂トスル京都ヲ去ル
 此日大小二千機ノ大空爆アリ十時発ノ汽車二時ニ至リ着ス雑踏混雑名伏スベカラズ西谷大島ニ君逢(?)ラレソノカニテ■■決行廿六日(木)十時頃北軽井沢ニ着ス。塩尻乗換ニ際シテハ車窓ヨリ出入ス篠井ヨリ北軽マデ前後三時間立詰メニテ病軀ヲ支スルニ困ム併シ北軽ノ自然ハ■■ニヨクテ■■爽心気恢復ノ思セリ■■ノ■■報ニ■■...■■眠ス■■■■(七月廿九日日曜)

昭和20年7月の国鉄時刻表

時刻表		東北本線 (白河・青森間主要駅)											
昭和二十年七月一日現在		3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
東 海 道 線		白河	郡山	盛岡	盛岡	盛岡							
3時	白河	125	511	129	100	615	133	135	519	521	137		
3時	白河	5 10	6 40	7 30	9 40	11 45	13 25	15 15	16 20	16 50	17 30		
3時	白河	5 19	6 49	7 39	9 49	11 54	13 35	15 25	16 30	17 00	17 30		
3時	白河	5 28	6 58	7 48	9 58	12 03	13 44	15 33	16 38	17 08	17 38		
3時	白河	5 50	7 20	8 10	10 20	12 25	14 06	15 55	17 00	17 30	18 00		
3時	白河	6 01	7 31	8 21	10 31	12 36	14 17	16 06	17 11	17 41	18 11		
3時	白河	6 09	7 39	8 29	10 39	12 44	14 25	16 14	17 19	17 49	18 19		
3時	白河	6 18	7 48	8 38	10 48	12 53	14 34	16 23	17 28	17 58	18 28		
3時	白河	6 27	7 57	8 47	10 57	13 02	14 43	16 32	17 37	18 07	18 37		
3時	白河	6 41	8 11	9 01	11 11	13 16	14 57	16 46	17 51	18 21	18 51		
3時	白河	6 52	8 22	9 12	11 22	13 27	15 08	16 57	18 02	18 32	19 02		
3時	白河	7 05	8 35	9 25	11 35	13 40	15 21	17 10	18 15	18 45	19 15		
3時	白河	7 15	8 45	9 35	11 45	13 50	15 31	17 20	18 25	18 55	19 25		
3時	白河	7 25	8 55	9 45	11 55	14 00	15 41	17 30	18 35	19 05	19 35		
3時	白河	7 34	9 04	9 54	12 04	14 09	15 50	17 39	18 44	19 14	19 44		
3時	白河	7 56	9 26	10 16	12 26	14 31	16 12	18 01	19 06	19 36	20 06		
3時	白河	8 06	9 36	10 26	12 36	14 41	16 22	18 11	19 16	19 46	20 16		
3時	白河	8 11	9 41	10 31	12 41	14 46	16 27	18 16	19 21	19 51	20 21		
3時	白河	8 24	9 54	10 44	12 54	14 59	16 40	18 29	19 34	20 04	20 34		
3時	白河	8 32	10 02	10 52	13 02	15 07	16 48	18 37	19 42	20 12	20 42		
3時	白河	8 37	10 07	10 57	13 07	15 12	16 53	18 42	19 47	20 17	20 47		
3時	白河	8 48	10 18	11 08	13 18	15 23	17 04	18 53	19 58	20 28	20 58		
3時	白河	8 58	10 28	11 18	13 28	15 33	17 14	19 03	20 08	20 38	21 08		
3時	白河	9 07	10 37	11 27	13 37	15 42	17 23	19 12	20 17	20 47	21 17		
3時	白河	9 17	10 47	11 37	13 47	15 52	17 33	19 22	20 27	20 57	21 27		
3時	白河	9 28	10 58	11 48	13 58	16 03	17 44	19 33	20 38	21 08	21 38		
3時	白河	9 46	11 16	12 06	14 16	16 21	18 02	19 51	20 56	21 26	21 56		
3時	白河	9 55	11 25	12 15	14 25	16 30	18 11	20 00	21 05	21 35	22 05		
3時	白河	10 08	11 38	12 28	14 38	16 43	18 24	20 13	21 18	21 48	22 18		
3時	白河	10 17	11 47	12 37	14 47	16 52	18 33	20 22	21 27	21 57	22 27		
3時	白河	10 25	11 55	12 45	14 55	17 00	18 41	20 30	21 35	22 05	22 35		
3時	白河	10 33	12 03	12 53	15 03	17 08	18 49	20 38	21 43	22 13	22 43		
3時	白河	10 42	12 12	13 02	15 12	17 17	18 58	20 47	21 52	22 22	22 52		
3時	白河	10 51	12 21	13 11	15 21	17 26	19 07	20 56	22 01	22 31	23 01		
3時	白河	10 59	12 29	13 19	15 29	17 34	19 15	21 04	22 09	22 39	23 09		
3時	白河	11 08	12 38	13 28	15 38	17 43	19 24	21 13	22 18	22 48	23 18		
3時	白河	11 17	12 47	13 37	15 47	17 52	19 33	21 22	22 27	22 57	23 27		
3時	白河	11 25	12 55	13 45	15 55	18 00	19 41	21 30	22 35	23 05	23 35		
3時	白河	11 33	13 03	13 53	16 03	18 08	19 49	21 38	22 43	23 13	23 43		
3時	白河	11 42	13 12	14 02	16 12	18 17	19 58	21 47	22 52	23 22	23 52		
3時	白河	11 51	13 21	14 11	16 21	18 26	20 07	21 56	23 01	23 31	24 01		
3時	白河	11 59	13 29	14 19	16 29	18 34	20 15	22 04	23 09	23 39	24 09		
3時	白河	12 08	13 38	14 28	16 38	18 43	20 24	22 13	23 18	23 48	24 18		
3時	白河	12 17	13 47	14 37	16 47	18 52	20 33	22 22	23 27	23 57	24 27		
3時	白河	12 25	13 55	14 45	16 55	19 00	20 41	22 30	23 35	24 05	24 35		
3時	白河	12 33	14 03	14 53	17 03	19 08	20 49	22 38	23 43	24 13	24 43		
3時	白河	12 42	14 12	15 02	17 12	19 17	20 58	22 47	23 52	24 22	24 52		
3時	白河	12 51	14 21	15 11	17 21	19 26	21 07	22 56	24 01	24 31	25 01		
3時	白河	12 59	14 29	15 19	17 29	19 34	21 15	23 04	24 09	24 39	25 09		
3時	白河	13 08	14 38	15 28	17 38	19 43	21 24	23 13	24 18	24 48	25 18		
3時	白河	13 17	14 47	15 37	17 47	19 52	21 33	23 22	24 27	24 57	25 27		
3時	白河	13 25	14 55	15 45	17 55	20 00	21 41	23 30	24 35	25 05	25 35		
3時	白河	13 33	15 03	15 53	18 03	20 08	21 49	23 38	24 43	25 13	25 43		
3時	白河	13 42	15 12	16 02	18 12	20 17	21 58	23 47	24 52	25 22	25 52		
3時	白河	13 51	15 21	16 11	18 21	20 26	22 07	23 56	25 01	25 31	26 01		
3時	白河	13 59	15 29	16 19	18 29	20 34	22 15	24 04	25 09	25 39	26 09		
3時	白河	14 08	15 38	16 28	18 38	20 43	22 24	24 13	25 18	25 48	26 18		
3時	白河	14 17	15 47	16 37	18 47	20 52	22 33	24 22	25 27	25 57	26 27		
3時	白河	14 25	15 55	16 45	18 55	21 00	22 41	24 30	25 35	26 05	26 35		
3時	白河	14 33	16 03	16 53	19 03	21 08	22 49	24 38	25 43	26 13	26 43		
3時	白河	14 42	16 12	17 02	19 12	21 17	22 58	24 47	25 52	26 22	26 52		
3時	白河	14 51	16 21	17 11	19 21	21 26	23 07	24 56	26 01	26 31	27 01		
3時	白河	14 59	16 29	17 19	19 29	21 34	23 15	25 04	26 09	26 39	27 09		
3時	白河	15 08	16 38	17 28	19 38	21 43	23 24	25 13	26 18	26 48	27 18		
3時	白河	15 17	16 47	17 37	19 47	21 52	23 33	25 22	26 27	26 57	27 27		
3時	白河	15 25	16 55	17 45	19 55	22 00	23 41	25 30	26 35	27 05	27 35		
3時	白河	15 33	17 03	17 53	20 03	22 08	23 49	25 38	26 43	27 13	27 43		
3時	白河	15 42	17 12	18 02	20 12	22 17	23 58	25 47	26 52	27 22	27 52		
3時	白河	15 51	17 21	18 11	20 21	22 26	24 07	25 56	27 01	27 31	28 01		
3時	白河	15 59	17 29	18 19	20 29	22 34	24 15	26 04	27 09	27 39	28 09		
3時	白河	16 08	17 38	18 28	20 38	22 43	24 24	26 13	27 18	27 48	28 18		
3時	白河	16 17	17 47	18 37	20 47	22 52	24 33	26 22	27 27	27 57	28 27		
3時	白河	16 25	17 55	18 45	20 55	23 00	24 41	26 30	27 35	28 05	28 35		
3時	白河	16 33	18 03	18 53	21 03	23 08	24 49	26 38	27 43	28 13	28 43		
3時	白河	16 42	18 12	19 02	21 12	23 17	24 58	26 47	27 52	28 22	28 52		
3時	白河	16 51	18 21	19 11	21 21	23 26	25 07	26 56	28 01	28 31	29 01		
3時	白河	16 59	18 29	19 19	21 29	23 34	25 15	27 04	28 09	28 39	29 09		
3時	白河	17 08	18 38	19 28	21 38	23 43	25 24	27 13	28 18	28 48	29 18		
3時	白河	17 17	18 47	19 37	21 47	23 52	25 33	27 22	28 27	28 57	29 27		
3時	白河	17 25	18 55	19 45	21 55	24 00	25 41	27 30	28 35	29 05	29 35		
3時	白河	17 33	19 03	19 53	22 03	24 08	25 49	27 38	28 43	29 13	29 43		
3時	白河	17 42	19 12	20 02	22 12	24 17	25 58	27 47	28 52	29 22	29 52		
3時	白河	17 51	19 21	20 11	22 21	24 26	26 07	27 56	29 01	29 31	30 01		
3時	白河	17 59	19 29	20 19	22 29	24 34	26 15	28 04	29 09	29 39	30 09		
3時	白河	18 08	19 38	20 28	22 38	24 43	26 24	28					

杉村氏のコメント再考(1)

- 西谷と田辺の「近さ」を示唆する、これらの史料を知ると、「西谷は数理に興味がなかった」で、片づけてしまった杉村氏のコメントへの回答を再考すべきだと思えてきた。
- コメントの解釈を少し変えて「それだけ西谷が田辺の思想に、常に接していたのならば、その影響を考慮しないのは不自然ではないか」としたらどうか？
- 影響が無かったら、膨大な議論の時間が空費されてしまったことになる。
- しかし、その様な議論のための議論を、西谷と田辺が延々と続けていたというのは、この二人の場合には想像し難い。
- また、西谷の書いたものには、田辺哲学の限界を語り、一見、それを低く見ているように見える箇所がある。

杉村氏のコメント再考(2)

- しかし、これも「軽視」というより、二人が忌憚なく互いを批判できた、真に親しい師弟であったことの顕れではないのか？
- 戦後、西谷が米軍によるパージで京大の教授職を失った際にも、田辺が心を痛め、また、その復帰を大変喜んでいただけが第三者との書簡でうかがえる。
- 両者の親密さは誰の目にも明らかで、それ故に、田辺への追悼講演を西谷が行ったのだろう。
- これほどの二人ならば、意識的、無意識的に、田辺との議論が、西谷の思想に何か影を落としていると考える方が自然なのではないだろうか。
- そうならば、「その影響が、どこかに見えないか？」と杉村さんのコメントを読み換えるべきではないか？
- そう思って西谷の空の思想をみると種の論理との構造的類似性が見えてきた。

空の思想と種の論理の構造的類似性

- 構造的類似性とは、理論の形の類似性のこと。たとえば、「建物Aと建物Bは、共に五階建てである」というような類似性。
- 東寺の塔と、吉田キャンパスの文系共同棟（林のオフィスが入っている建物）は似ても似つかないが、共に五階建てという意味での構造は同じ。
- 構造の類似性とは、この様なことを言い、西谷と田辺が目指したものが、同じ方向に向いていたということではない。それどころか、むしろ、西谷は田辺の哲学の構造の一部を継承しながらも、その結論は否定する方向に進んだともいえる。
- 以下、その「類似性」を、幾つか指摘する。

大域的構造と局所的構造

- 比較できる構造には、大域的構造と局所的構造の二種類がある。
 - 「大域的、局所的」は、数学などでよく使われる用語。局所解析学、大域解析学など。
 - 回互的に関係する二つのものの様子を壁を接する二部屋で譬えて議論するのは局所的構造の議論。
 - その二者の連関が、 n 者にまで拡張されているのが回互的關係だ、とするのが大域的。
 - 「日本列島は北海道、本州、四国、九州からなる」が大域的。
 - 「関門海峡の両岸はトンネルと橋で結ばれている」が局所的。

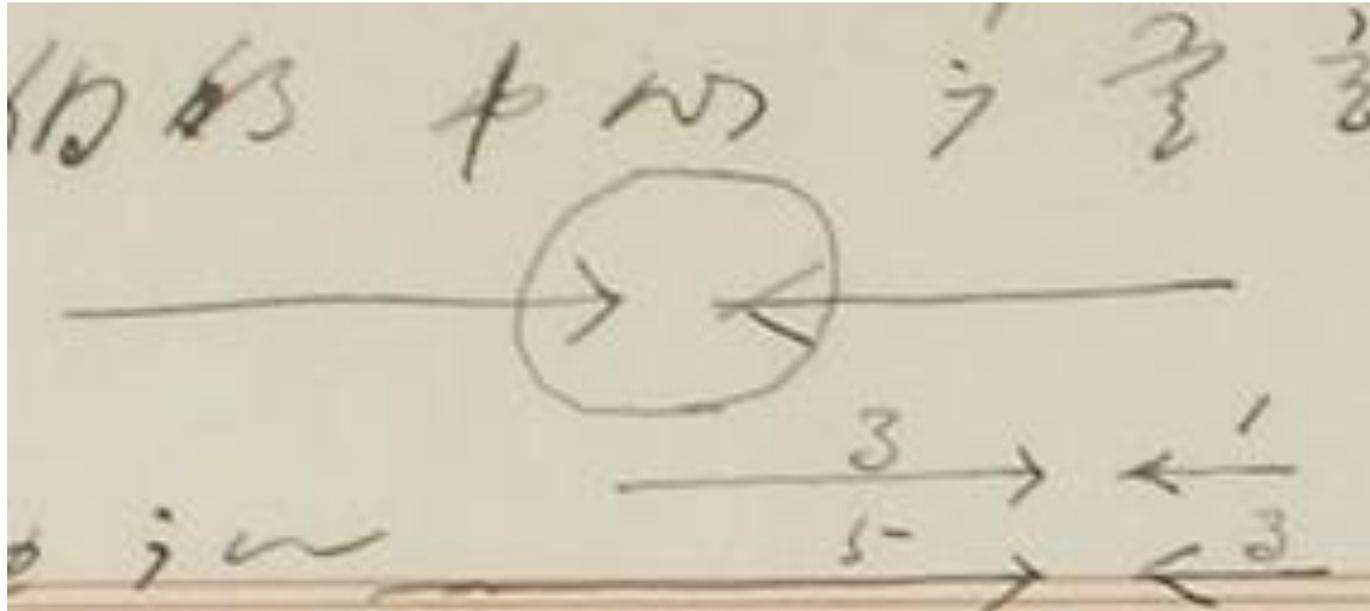
空と種の大域的構造の類似性

- 種の論理の背景には、「哲学通論」で登場した「絶対弁証法」がある。西田は「断崖から落ち、息絶えて再生する」ようにして哲学したが(鈴木大拙)、田辺は「方程式をたて、それを近似的に解き、また、方程式も対象に合わせて修正する」ようにして哲学した。
- そのため田辺哲学は、理論が変遷しても、基本原理＝基本方程式が、そのまま維持されていることが多く、特に「絶対弁証法」は、生涯維持された様に見える。
- その絶対弁証法では、すべての二つのものが互いに弁証法の矛盾対立の関係にあるのが基本。
- これに対して空では、既に述べたように「そういう回互的關係そのものが、すべてのものを一つに**集め結びつける「力」**にほかならない。〈中略〉空の場は力の場である」(10,p.169)となる。
- 田辺:すべてが、テンソルの様に緊張関係、対立関係にあるのが自然状態。
- 西谷:すべてが、開かれ、透明につながっているのが自然状態。

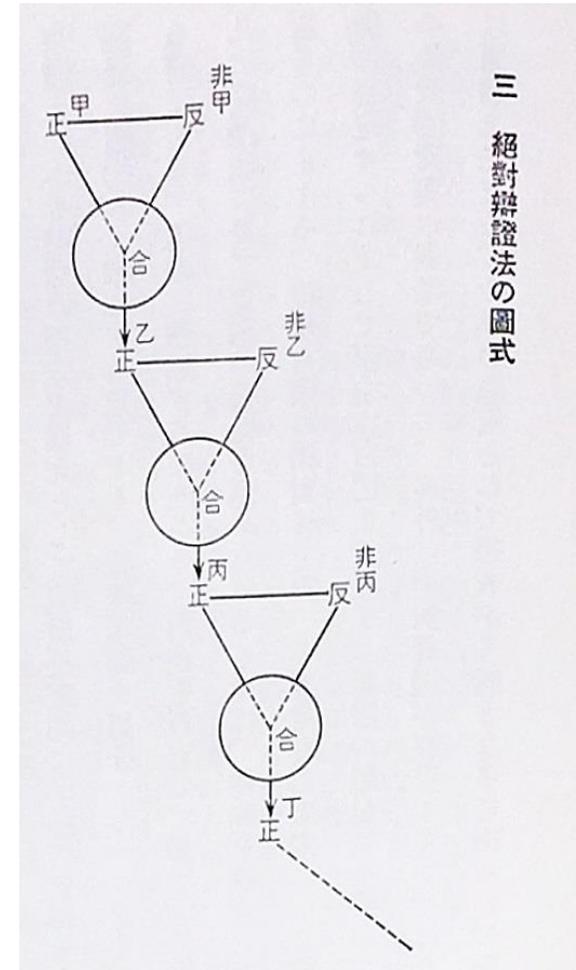
種の論理における局所構造：切断

- 切断は、田辺の種の論理/絶対弁証法を象徴する構造。
- 林が、[この論文](#)（日本哲学史研究、2012年10月）で指摘したように、その構造はテンソルの緊張関係を内蔵しており、それを図示するとしたら、種の論理が生まれた昭和9年の特殊講義の講義ノートの次のページにある $\rightarrow\leftarrow$ （今は使われないが、昔使われたテンソルの記号）という構造になる。

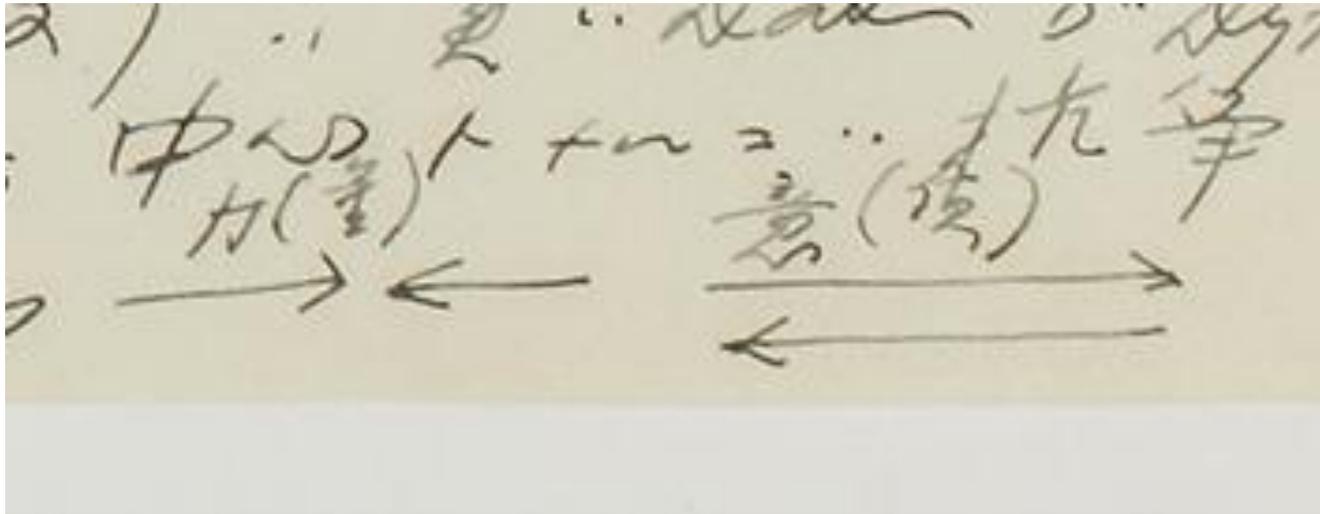
種の論理の局所構造：左上の図



- テンソル記号の矢印が○で囲まれていることに注意。
- 「哲学通論」の絶対弁証法の図の○と同じ意図だろう。(右の図参照)



種の論理の局所構造: 右下の図

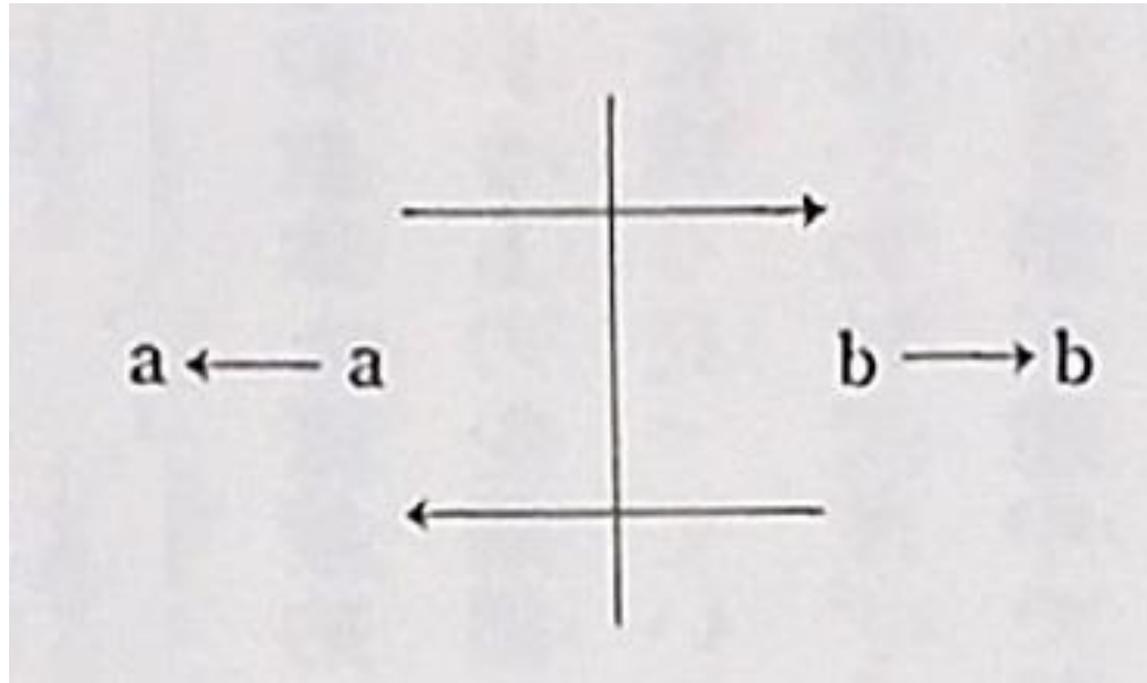


- 左の二つの矢印は高次方向量([参照](#))としてのテンソル、つまり、両者が弁証法的緊張関係にある「力」を表す。
- その一方で、右は緊張関係がない反対方向の二つのベクトル。田辺が「対立がなく現実を反映しない」としたものの。

回互的關係の局所構造：昭和40年度版

- あまり議論されることが無いと思われるが、西谷が回互的關係を説明した文章に、著作集24巻pp.55-69の大谷大学講義第4講(昭和40年度)がある。これは家族や、その中でのコミュニケーションに回互的關係を見出すというもので、林の知識では、これが回互の説明に「分与」Mit-teilung という用語が使われた最初の例：
 - 24,p.59より：そこに一種のcommon共同的と言われる場が開かれて来るわけですが。個と個との間にそういう場が開かれないとcommunication という事はないわけです。ドイツ語で言えば Mit-teilung という事です。Mit-というのは com-「一緒に」という事で、Mit-teilung というのは、「一緒に分かち合う」という事ですね。一方では「分かち」という事で、その方向と同時に「共に」という事が一つに結びついているわけです。そういう事が同時に成り立たないとcommunication とは言えないわけです。

そして、その関係を示した図



Mitteilungの由来

- これは、もともと西谷の戦前の重要な業績とされるシェリングの「人間的自由の本質」の岩波文庫版和訳の中で、「分与」と訳したもの。西谷は、シェリングが、mitteilung と verteilung を如何に使い分けているかの詳しい解説をつけている。
- 実は、「分与」という訳は良くないらしい。ドイツ人に Mitteilung「分与」といって、それは Mitteilung でなく Verteilung だと言われてしまった経験が林にはある。
- Ver- には切り離すという意があり、verteilen は、相続のために「土地を分割して、それぞれの子供に分与する」というような意味で使われる。
- 一方で、mitteilen は同義語としてinformieren が挙げられることが多い様に、「切り離して渡す」のではなく、渡しているが、元のものは手元にあるという意味になる。Wordの原稿を添付してメールで送っても原本は手元に残る。
- シェリングは、神が分与するときに mitteilen を使っている。

空と即における回互の局所構造 昭和57年

- そして、昭和57年の「空と即」では、この *mitteilung* に加えて、田辺が種の論理を開拓するときに、Max Scheler と Lucien Lévy-Bruhl の思想から借用した「分有」*teilhaben* が、回互の説明に現れる。
 - ちなみに、この「分有」もあまり良くない訳語。他に「融即」という訳があり、こちらの方がニュアンスが良く出ている。
- 著作集13巻、「空と即」、p.133: 回互的な連関の場合に重要なことは、一つには、本質的にAに属するものがBのうちへ自らをうつす(映す、移す)とか投射するとかして現象する時、それがBのうちでAとして現象するのではなくBの一部として現象するという点である。言い方を換えれば、A「体」がB「体」へ自らを伝達する時、それはA「相」においてではなくB「相」で伝達される。Aは自らをBへB相で分与(*mitteilen*)し、BもAからそれをB相で分有(*teilhaben*)する。これがBへの自己伝達というAの「用」である。

その他にも...

- 「空と即」では、そのテーマからすると驚くべき多くの量の「論理」「論理学」についての言及が見られる。西谷は、19世紀終わりから20世紀初頭を「新論理学の時代」と見ていたと思われる：J.S.Mill, H.Cohen, 西田などの京都学派、J. Dewey,...,そして、Russell などの記号論理学
- 西谷は、「ロゴス」とか「理性」などの言葉も使い、これらを異なるニュアンスで使い分けているが、これは、彼の師のひとり、M.Heidegger の Sein und Zeit で行われた(伝統)論理・論理学批判における Logik, Logistik, lógosの使い分けに、ほぼ同期していることがわかる。
- これに、西谷のニヒリズム論における Heidegger 哲学の位置づけを考えれば、その意図が理解できる。

詳細は、これから書く論文で！

- 以上のことを念頭に、「空と即」を分析していくと、種の論理とのテーマの「同期」と、他方で「結論の決別」が各処で見えてくる。
- また、西谷の思想をニヒリズム論にまで遡れば、昭和40年度大谷大学講義の図が、「プラトン以来の西洋の「一般・全・類」の概念が、此岸の平等・水平な関係を、単に90度回転して彼岸の関係にしたものに過ぎない」という西谷が、それを再度90度戻して、絶対此岸の関係に直したものであることがわかる。
- そして、大島メモに残されている田辺のミニ・トーク「共栄圏の論理について」に現れる、家族の中での order の議論と、大谷大講義における西谷の家族論を対比させるなどすれば、この二人の関係が、さらに明瞭に見えてくる...
- のだが、それには多くの議論が必要なので、それは略し、この講演を終わる。